

解答

一

- 問一 ① しゃさい ② 起源 ③ 単純
- 問二 ー ア 2 ウ
- 問三 自然エネルギーには人間の制御が不可能な広大な領域があるから。
- 問四 シンボル
- 問五 オ
- 問六 エネルギーをうまく使う（知恵）
- 問七 エネルギーを遠くへ運ぶことは技術的に不可能だったことと、地域社会がコミュニティを形成し、エネルギーを統括して、技術を使う場所と技術をうまく使うための技術者を持つまとまりのある組織体であったことから。

二

- 問一 ① 置〔いた〕 ② 興奮 ③ 競技 ④ 宣言
- 問二 をあげられなかった。
- 問三 インチョウを気にして、周りには張り詰めた空気が流れ、重く、息苦しいようす。
- 問四 ウ
- 問五 校内放送で悪いことを言われ、いつものインチョウならすぐに怒り出すはずなのに、なにも起こらなかったこと。
- 問六 イ
- 問七 周りに流されず、正義感があり、さりげない優しさを持つ人。
- 問八 (1) 他人への配慮ができず、自己中心的な気の強い人。
(2) 気持ちの弱いところを隠し、周囲に心を開けず、強くふるまっている人。

一 解説

二

- 問三 傍線Aの後にある「なぜでしょうか。」で始まる段落に着目します。火や水や風のエネルギーはありがたいが、人間による制御には限りがあり、制御の不可能な広大な領域を人々は感じていたという内容から三十字以内で説明します。
- 問五 傍線Cを含む一文から、二一世紀の大きな課題になっていくことは何かを考えます。少し前にある「したがって、さまざまな形でエネルギーを運べるようになった現在では」という記述や「ところが、それぞれの」で始まる段落の内容から、選択肢オがふさわしいことがわかります。
- 問七 本文中盤の「あらっぱく言えば、」で始まる段落と、最終段落に「地域社会はもともとエネルギーで独立していた」という記述があります。そのためこの二つの段落から、なぜ独立していたかについてまとめます。
- 問六 本文の後半に描かれているインチョウの姿から考えます。校内放送を聞いて流したなみだを、ものすごいはやさでふいて給食を食べ始めた様子や、放送委員のふたりが男の先生といっしょに教室にもどってきたときに、見えてないみたいなのふりをしている様子から、「自分自身のプライドを守る」という記述を含む、選択肢イがもっともふさわしいことがわかります。